

2026 年度 慶應義塾大学 一般選抜

商学部 論文テスト

【出題意図】

論文テストの問題では、2つの設問（Ⅰ・Ⅱ）を設定し、基礎知識と表現力・思考力・判断力を評価しています。

Ⅰ

設問Ⅰでは、今井むつみ・秋田喜美「言語の本質：ことばはどう生まれ、進化したか」（中公新書、2023年）を題材にしています。人間がどのようにして言語を理解していくかを論じた文章の中で、筆者が展開する論理を適切に読み解くことができるか、また、筆者の主張を踏まえたうえで、その内容を適切な用語を用いて簡潔に説明できるかを問うています。

Ⅰ	問1	
	(1)(2)	18
	(3)(4)	26
	(5)(6)	21
	(7)(8)	11
	(9)(10)	28
	(11)(12)	27
	問2	
	(13)	4
	(14)	2
	(15)	3
	(16)	8
	問3	
	(ア)	逆方向
	(イ)	名前
	(ウ)	一般化
	(エ)	言語
	問4	全ての△が黄色であるとは限らない
	問5	言語の学習を通じて対称性推論を導き出すことができない

II

【出題意図】

設問IIでは、村上道夫・永井孝志・小野恭子・岸本充生「基準値のからくり」（講談社、2014年）を題材にしています。食品に表示される消費期限と賞味期限という身近なテーマを題材として、文章の内容を正確に理解し、具体例と一般化された説明との関係を読み取ることができるか、また、本文中に示された数量的説明や式をもとに計算を行うことができるかを問うています。

【解答例】

II	問1	
	(17)	2
	問2	
	(18)(19)	48
	(20)(21)	50
	(22)(23)	15
	問3	
	(24)(25)	13
	(26)(27)	21
	(28)(29)	54
	問4	消費者の嗜好のために、安全面では問題ない食品の期限が短くなる
	問5	安全よりも食感を理由に期限が設定されている
